電子情報通信学会ワードテンプレート―和文論文誌A用―

電子 花子†a)　　　情報 太郎††　　　通信 次郎††

Word Template for The IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics,

Communications and Computer Sciences (Japanese Edition)

Hanako DENSHI†a), Taro JOUHO††, and Jiro TSUSHIN††

あらまし　和文論文誌Aは，投稿による“論文”，“レター”と，編集委員会から執筆を依頼する“招待論文”，“解説論文”から構成されている．以下では，これらを “記事”と総称する．論文は，投稿者自身の研究・開発・検討等の結果をまとめた報告であり，新規性，有効性，信頼性に優れているものである．レターは更に，“研究速報”，“紙上討論”，“問題提起”及び“訂正”に分類される．

キーワード　論文，レター，招待論文，解説論文

 † 第一大学工学部，東京都
Faculty of Engineering, First University, 1-2-3 Yamada, Minato-ku, Tokyo, 105-0123 Japan

 †† 大阪株式会社開発部，吹田市
R&D Division, Osaka Corporation, 4-5-6 Kawada, Suita-shi, 565-0456 Japan

 a) E-mail: hanako@denshi.ac.jp

1．まえがき

本ワードテンプレートは論文用です．

2．投稿原稿の作成方法について

ここでは，和文論文誌Aの「和文論文投稿のしおり」より，原稿を執筆する際に必要なことを解説します．

2.1　投稿原稿の構成

投稿原稿は下記の項目を満たしている必要があります．

(1)　論文の分類（論文，研究速報など）

(2)　論文題名（和文，英文）

(3)　著者名（和文，英文）

(4)　所属及び住所（和文，英文）

(5)　連絡先（E-mailアドレス）

(6)　和文あらまし（500文字以内）

(7)　和文キーワード（4～5語）

(8)　本文（まえがき，むすびを含む）

(9)　謝辞（記載する場合のみ）

(10)　文献（英文表記，もしくは和英併記，投稿のしおり2.6.1(g)を参照）

(11)　付録（付録とすべき項目がある場合のみ）

(12)　著者紹介

(13)　著者写真

(14)　英文アブストラクト（100ワード以内）

(15)　英文キーワード（和文キーワードの英訳）

(16)　すべての図，写真，表，及びそのキャプション（和文・英文）

2.2　英文アブストラクト，英文キーワード

英文アブストラクト（100ワード以内）と英文キーワード（和文キーワードの英訳）を作成します．この他，題名，すべての著者氏名（イニシャルは不可），所属，住所を英文で表記します（様式自由）．これらは，掲載時に，ソサイエティが発行している英文論文誌に掲載されます．

2.3　標準ページ数

本文のレイアウト（1頁あたりの文字数）は，24字×44行×2段＝2112字となります．

ページ数は，論文の場合は刷り上り8ページを標準とします（英文アブストラクト・英文キーワードは英文論誌に掲載されるため，標準ページ数に含まれません）．

2.4　用字用語

(a)　用字は原則として「常用漢字」を用い，仮名「新仮名づかい」とします．

(b)　用語は原則として

①「文部省学術用語集，電気工学編」及び本会編

②「電子情報通信用語辞典」

③「電子情報通信ハンドブック」

によるものとします．

(c)　量記号，単位記号の略号（SI）及びシンボルは，原則として本会編「電子情報通信ハンドブック」によるものとします．

(d)　句読点は，句点「．」と読点「，」をそれぞれ全角で用います．

2.5　図，写真，表

(a)　図，写真，表は著者がオリジナルに作成したものを使用して下さい．

(b)　すべての図，写真，表には，和英両方の題名（キャプション）を付けて下さい．

(c)　図中の用語は原則として英文を用いて下さい．本文中で図中の英文用語に対応する和文用語を用いる場合には，必要に応じて当該和文用語の後に対応する英文用語を括弧に入れて示して下さい．

(d)　図，写真，表はコンピュータ等を用いてきれいに作成して下さい．

(e)　図，写真，表は，その和英題名とともに本文中の適当な位置に挿入して下さい．

(f)　図，写真，表は，刷り上がり片段6.5cm，両段13cmになります．

(g)　図，写真，表中の文字は，刷り上がり（原寸）の大きさで判別できるように作成します（7ポイントが目安）．

(h)　著者写真データは縦26.4mm，横20mmサイズで解像度300dpi程度とします．ファイル名は名字及び会員番号とします．非会員の場合はファイル名は名字及び999999とします．すでに論文誌に掲載されている写真を再利用することを希望する場合は，会員番号を申し出て下さい．なお，会員外の方はその都度，写真を用意して下さい（2001年12月号掲載分からの適用）．写真は白黒，カラーいずれも可です．

2.6　文　献

文献は，以下のスタイルに従ってリストし，引用して下さい．ただし，投稿中の原稿は，既掲載の文献で代替できない場合に限って引用するものとし，最小限にとどめるよう努めて下さい．この場合も該当箇所の記述を投稿原稿に含めることによって投稿中の原稿引用を避けることができないか，十分に検討して下さい．

なお，査読者が入手しにくいと思われる文献は投稿時にコピーを添付して下さい．また引用する文献の著作権に十分注意して下さい．

2.6.1　文献のリスト法

(a)　付録Eの「学術雑誌略語表」に掲載されている雑誌名は，同表に従って略語で記す．

(b)　著者が複数の場合には，全著者の氏名を記入する．なお，欧文の場合にはイニシャルと姓名を記入し, A.G. Wine のようにイニシャルと姓名の間にのみ半角スペースを挿入する．

(c)　英文論文の標題中の単語については，文頭以外は小文字を使用する．

(d)　欧文文献においては，常に半角ピリオド「.」と半角カンマ「,」を用いる．和文文献においては，読点には全角の「，」を用い，「vol.」，「no.」，「pp.」あるいは月名等の省略記号及び行末の句点には半角ピリオド「.」を用いる．なお，vol.J62-B，no.1，pp.20-27等の場合には，半角ピリオド「.」の後ろにはスペースは挿入しない．

(e)　発行の年月を記載する場合には，月年の順で，月名には英語を，年には西暦を用いる．

(f)　Webページは改版や消滅の可能性があるので，URLを参照することはできるだけ避ける．ただし，標準化団体などが文書公表の場をWebページにしている場合などはこの限りではない．

(g)　和文表記の文献については，その英語表記を併記する．具体的には次の通りとする．

(g.1)　文献に英訳が存在する場合，次の2つのいずれかの方法を選択し，これに従って，記載を行なう．

(g.1.1)　和文表記の文献を記載し，改行の上，その英文表記の文献を併記する．

(g.1.2)　和文表記の文献の代わりに英文表記の文献を記載する．

(g.2)　文献に英訳が存在しない場合，和文表記の文献を記載し，改行の上，その和文の題目，雑誌名などをローマ字表記としたものを併記する．

3．むすび

投稿原稿の準備ができましたら，投稿論文管理システムからご投稿下さい．ご投稿をお待ちしております．

文　　　献

 [1] 著者名，“標題，”雑誌名，巻，号，pp.を付けて始め-終りのページ，月年.

Author name, “Title,” Journal title, volume, issue, Start-End page with pp., Month Year.

 [2] 山上一郎，山下二郎，“パラメトリック増幅器，”信学論 (B), vol.J62-B, no.1, pp.20-27, Jan. 1979.

I. Yamagami and J. Yamashita, “Parametric amplifier,” IEICE Trans. Commun. (Japanese Edition), vol.J62-B, no.1, pp.20-27, Jan. 1979.

 [3] W. Rice, A.C. Wine, and B.D. Grain, “Diffusion of impurities during epitaxy,” Proc. IEEE, vol.52, no.3, pp.284-290, March 1964.

 [4] 著者名，書名，編者名，発行所，発行都市名，発行年.

Author name, Book title, Editor name, Publisher, Issuing City name, Year of issue.

 [5] 山田太郎，移動通信，木村次郎（編），（社）電子情報通信学会，東京，1989.

T. Yamada, Mobile communication, J. Kimura (ed.), IEICE, Tokyo, 1989.

 [6] H. Tong, Nonlinear Time Series: A Dynamical System Approach, J.B. Elsner, ed., Oxford University Press, Oxford, 1990.

 [7] 著者名，“標題，”書名，編者名，章番号またはpp.を付けて始め-終りのページ，発行所，発行都市名，発行年．

Author name, “Title,” Book title, Editor name, Chapter number or Start-End page with pp., Publisher, Issuing City name, Year of issue.

 [8] 山田太郎，“周波数の有効利用，”移動通信，木村次郎（編），pp.21-41，（社）電子情報通信学会，東京，1989.

T. Yamada, “Effective use of frequency,” Mobile communication, J. Kimura (ed.), pp.21-41, IEICE, Tokyo, 1989.

 [9] H.K. Hartline, A.B. Smith, and F. Ratlliff, “Inhibitory interaction in the retina,” in Handbook of Sensory Physiology, ed. M.G.F. Fuortes, pp.381-390, Springer-Verlag, Berlin, 1972.

 [10] 著者名，“標題，”会議名，no.を付けて論文番号，pp.を付けて始め-終りのページ，開催都市名，国名，月年．

Author name, “Title,” Conference name, Article number with no., Start-End page with pp., Host city name, Country of issue, Month Year.

 [11] 川上三郎，川口四郎，“紫外域半導体レーザ，”1995信学全大，分冊2, no.SB2-1, pp.20-21，東京，日本，Sept. 1995.

S. Kawakami and S. Kawaguchi, “Ultraviolet semiconductor laser,” Proc. IEICE Gen. Conf. 1995, Ⅱ, no.SB2-1, pp.20-21, Tokyo, Japan, Sept. 1995.

 [12] 著作権管理委員会，“電子情報通信学会著作権規程，”電子情報通信学会，https://www.ieice.org/jpn/about/kitei/chosakukenkitei.pdf, 参照Aug. 3, 2009.

IEICE Copyright Management Committee, “IEICE Provisions on Copyright,” IEICE, https://www.ieice.org/jpn/about/kitei/chosakukenkitei.pdf, ref. Aug. 3, 2009.

付　　録

1．ワードテンプレートに関して

(1)　ページの余白

ページの余白は，上：25mm，下：25mm，左：14.5mm，右：14.5mmとなっています（図1）．

(2)　文字数と行数

文字数と行数は，文字数：24文字，行数：44行，二段組となっています（図2）．

(3)　本文フォント

本文のフォントは，日本語：ＭＳ明朝 8.5pt，英数字：Times New Roman 8.5ptとなっています（表1）．



図1　余白の設定

Figure 1　Page Configuration: Space.



図2　文字数と行数

Figure 2　Page Configuration: Character and Line.

2．スタイルと書式に関して

本ワードテンプレートでは，［書式］→［スタイルと書式］より文字レイアウトや段落レイアウトが変更できます．表1に［スタイルと書式］の一覧を示します．

該当箇所にカーソルを置き，［スタイルと書式］の中から書式を選択すれば，書式設定が適用されます．

3．スタイルを使用する際の留意点

本ワードテンプレートを使用する際，用意したスタイルの設定が変更されないよう下記に留意願います．

(1)　「スタイルの変更」→「自動的に更新する」のチェックボックスをチェックしないで下さい．

(2)　「文字/段落スタイルの変更」→「選択箇所と一致するよう更新する」を選択しないで下さい．

(3)　「文字/段落スタイルの変更」→「スタイルに登録されている書式を更新する」を選択しないで下さい．

（XXXX年XX月XX日受付，XXXX年XX月XX日再受付）

表1　［スタイルと書式］一覧

Table 1　Set of Style in MS-Word template file.

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| スタイル名 | フォント名 | 文字サイズ | 配置 | 間隔 |
| ゴシック | Arial/ＭＳゴシック | 8.5pt | 両端揃え | 設定無し |
| 共通\_本文 | Times New Roman/ＭＳ明朝 | 8.5pt | 両端揃え | 設定無し |
| 共通\_見出し | Arial/ＭＳゴシック | 10pt | 両端揃え | 段落前:0.5行 段落後:0.5行 |
| 共通\_著者紹介 | Times New Roman/ＭＳ明朝 | 7pt | 両端揃え | 行間:固定値10.8pt |
| 共通\_文献 | Times New Roman/ＭＳ明朝 | 7pt | 両端揃え | 行間:固定値10.8pt |
| 共通\_文献見出し | Arial/ＭＳゴシック | 8.5pt | 中央揃え | 設定無し |
| 論文\_タイトル（和） | Times New Roman/ＭＳ明朝 | 13pt | 両端揃え | 行間:固定値23.5pt |
| 論文\_著者名（和） | Times New Roman/ＭＳ明朝 | 10.5pt | 両端揃え | 段落前:5.5pt 段落後:18.8pt |
| 論文\_タイトル（英） | Times New Roman/ＭＳ明朝 | 11pt | 両端揃え | 段落前:9.3pt 段落後:14.8pt |
| 論文\_著者名（英） | Times New Roman/ＭＳ明朝 | 10pt | 両端揃え | 段落前:5.7pt 段落後:14.8pt |
| 論文\_あらまし | Times New Roman/ＭＳ明朝 | 8pt | 両端揃え | 段落前:23pt 行間:固定値11.8pt |
| 論文\_キーワード | Times New Roman/ＭＳ明朝 | 8pt | 両端揃え | 段落後:29pt 行間:固定値11.8pt |
| 研究速報\_タイトル（和） | Arial/ＭＳゴシック | 8.5pt | 両端揃え | 設定無し |
| 研究速報\_著者名（和） | Times New Roman/ＭＳ明朝 | 8pt | 両端揃え | 設定無し |
| 研究速報\_タイトル（英） | Times New Roman/ＭＳ明朝 | 6pt | 両端揃え | 段落前:2pt 行間:固定値9pt |
| 研究速報\_著者名（英） | Times New Roman/ＭＳ明朝 | 6pt | 両端揃え | 行間:固定値9pt |
| 研究速報\_所属 | Times New Roman/ＭＳ明朝 | 6pt | 両端揃え | 行間:固定値9pt |
| 研究速報\_見出し | Arial/ＭＳゴシック | 8.5pt | 両端揃え | 設定無し |
| レター\_タイトル（和） | Arial/ＭＳゴシック | 11.5pt | 両端揃え | 行間:固定値20.7pt |
| レター\_タイトル（英） | Times New Roman/ＭＳ明朝 | 9pt | 両端揃え | 段落前:8.7pt |
| レター\_著者名（和） | Times New Roman/ＭＳ明朝 | 8.5pt | 両端揃え | 段落前:6.2pt 行間:固定値15.2pt |
| レター\_著者名（英） | Times New Roman/ＭＳ明朝 | 9pt | 両端揃え | 設定無し |
| レター\_あらまし | Times New Roman/ＭＳ明朝 | 8pt | 両端揃え | 段落前:13.9pt 行間:固定値11.8pt |
| レター\_キーワード | Times New Roman/ＭＳ明朝 | 8pt | 両端揃え | 段落後:9.5pt 行間:固定値11.8pt |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 縦26.4mm横20mm |  | 電子　花子（学生員）1970第一大学・工卒．1972同大大学院修士課程在学中．現在，通信分野の研究に従事． |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 縦26.4mm横20mm |  | 情報　太郎（正員）1960第一大学・工卒．1962同大大学院修士課程了．現在，通信分野の研究に従事． |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 縦26.4mm横20mm |  | 通信　次郎（正員：フェロー）1960第一大学・工卒．1962同大大学院修士課程了．現在，通信分野の研究に従事． |

Abstract

key words